

演習問題 2.19 次のベクトルの組が 1 次独立かどうか調べよ。

$$(1) \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ a \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 4 \\ b \\ 2 \end{pmatrix} \text{ ただし } a, b \text{ は各自の出席番号の下 2 桁と 1 桁。}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ q \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ p \end{pmatrix} \text{ ここで } p, q \text{ はある定数。}$$

ベクトルの組 $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k$ が 1 次独立という事は $a_1\mathbf{v}_1 + \dots + a_k\mathbf{v}_k = \mathbf{0}$ という関係式から $a_1 = \dots = a_k = 0$ が出てくる事を意味する。この式が $a_1 = \dots = a_k = 0$ という解しか持たなければ 1 次独立、それ以外の解を持てば 1 次独立でない事になる。以上は定義の事実上の繰り返しですが重要な事実ですので、**しっかり理解しておいて下さい。**

$$(1) \text{ のみ示します。 } a_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} + a_2 \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ a \end{pmatrix} + a_3 \begin{pmatrix} 4 \\ b \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ とする。この式から}$$

$$a_1 + 2a_2 + 4a_3 = 0$$

$$ba_3 = 0$$

$$2a_1 + aa_2 + 2a_3 = 0$$

$b = 0$ の人と $b \neq 0$ の人で大きく違います。 $b = 0$ の場合は $a_1 = a_2 = a_3 = 0$ 以外の解が存在します。例えば $a_1 = 4 - 4a, a_2 = 6, a_3 = a - 4$ は上の連立方程式の解になります。よってこのとき 1 次独立ではありません。

よって $b \neq 0$ と仮定します。このとき $a_3 = 0$ となるので a_1, a_2 が次を満たすものが解になる。

$$a_1 + 2a_2 = 0$$

$$2a_1 + aa_2 = 0$$

ここで更に場合分け。 $a = 4$ のときは例えば $a_1 = 2, a_2 = -1$ が解になるので 1 次独立ではない。 $a \neq 4$ のときは $a_1 = a_2 = 0$ しか解がないので 1 次独立である。

演習問題 2.20 $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ は 1 次独立とする。 $\mathbf{y}_1 = \mathbf{x}_1, \mathbf{y}_2 = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2, \mathbf{y}_3 = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2 + \mathbf{x}_3$ に対し、 $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ は 1 次独立かどうか調べよ。

また $\mathbf{y}_1 = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2, \mathbf{y}_2 = \mathbf{x}_2 + \mathbf{x}_3, \mathbf{y}_3 = \mathbf{x}_3 + \mathbf{x}_1$, に対し $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ が 1 次独立かどうか調べよ。

更に $\mathbf{y}_1 = \mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_2, \mathbf{y}_2 = \mathbf{x}_2 - \mathbf{x}_1, \mathbf{y}_3 = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_3$ に対し $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ が 1 次独立かどうか調べよ。

前問でも書きましたが $a_1\mathbf{y}_1 + a_2\mathbf{y}_2 + a_3\mathbf{y}_3 = \mathbf{0}$ から $a_1 = a_2 = a_3 = 0$ が出てくれば 1 次独立です。それを調べていきます。最初は $a_1\mathbf{y}_1 + a_2\mathbf{y}_2 + a_3\mathbf{y}_3 = a_1\mathbf{x}_1 + a_2(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2) + a_3(\mathbf{x}_1 +$

$\mathbf{x}_2 + \mathbf{x}_3 = (a_1 + a_2 + a_3)\mathbf{x}_1 + (a_2 + a_3)\mathbf{x}_2 + a_3\mathbf{x}_3 = \mathbf{0}$ ですから, $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ の 1 次独立性から $a_1 + a_2 + a_3 = 0, a_2 + a_3 = 0, a_3 = 0$ が従う。これより $a_1 = a_2 = a_3 = 0$ が得られ $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ は 1 次独立です。

2 番目では $a_1\mathbf{y}_1 + a_2\mathbf{y}_2 + a_3\mathbf{y}_3 = a_1(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2) + a_2(\mathbf{x}_2 + \mathbf{x}_3) + a_3(\mathbf{x}_3 + \mathbf{x}_1) = (a_1 + a_3)\mathbf{x}_1 + (a_1 + a_2)\mathbf{x}_2 + (a_2 + a_3)\mathbf{x}_3 = \mathbf{0}$ なので $a_1 + a_3 = 0, a_1 + a_2 = 0, a_2 + a_3 = 0$ が得られ, これより $a_1 = a_2 = a_3 = 0$ が従う。 $\mathbf{y}_1, \mathbf{y}_2, \mathbf{y}_3$ は 1 次独立。

3 番目は $a_1\mathbf{y}_1 + a_2\mathbf{y}_2 + a_3\mathbf{y}_3 = a_1(\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_2) + a_2(\mathbf{x}_2 - \mathbf{x}_1) + a_3(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_3) = (a_1 - a_2 + a_3)\mathbf{x}_1 + (a_2 - a_1)\mathbf{x}_2 + a_3\mathbf{x}_3 = \mathbf{0}$ なので $a_1 - a_2 + a_3 = 0, a_2 - a_1 = 0, a_3 = 0$ が分る。しかしこの場合は $a_3 = 0, a_1 = a_2$ なら式を満たす。 $a_1 = a_2 = 1, a_3 = 0$ という解を持つので 1 次独立ではない。

演習問題 2.21 次のベクトルの組がベクトル空間 V の基底である事を示せ。

(1) $V = \mathbf{K}^n$ で, ベクトルの組は基本ベクトル $\mathbf{e}_1, \dots, \mathbf{e}_n$

(2) $V = \mathbf{K}^3$ でベクトルの組は $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$

(3) $V = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^3 \mid x + y + z = 0 \right\}$ でベクトルの組は $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$

(4) $V = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{K}^4 \mid x - y + z + w = 0 \right\}$ でベクトルの組は $\begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$

$\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ がベクトル空間 V の基底であるとは, (1) $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ は 1 次独立, (2) $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ は V を生成する, の 2 つを満たす事をいいます。(1) は前問でも取り上げているのでここでの説明は省略。(2) は $V = \langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n \rangle$ という事実と同じです。具体的には任意のベクトル $\mathbf{v} \in V$ に対しスカラー a_1, \dots, a_n で $\mathbf{v} = a_1\mathbf{v}_1 + \dots + a_n\mathbf{v}_n$ となるものを見つければ良いわけです。

(3) のみ示します。まず 1 次独立 ; $a \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + b \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ から $a = b = 0$ が従うの

で OK。任意のベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in V$ に対し $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = a \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + b \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ となる a, b

を見つければよい。ここで予備的計算として、「もし存在していたとすると a, b はどのような数か」という事を調べると, 与式より $x = a, b = y$ でなくてはならない。

任意のベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in V$ を考える。 V の定義より $x + y + z = 0$ を満たしている。

$x \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ -x - y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \mathbf{v}$ となるので $V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \right\rangle$

である。

演習問題 2.22 ベクトルの組 v_1, \dots, v_n が 1 次独立である事と次は必要十分である。「任意の $i = 1, \dots, n$ に対し, $\langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle \subsetneq \langle v_1, \dots, v_{i-1}, v_i \rangle$ が成立する。ただし, $\langle \rangle = \{0\}$ とする。」

v_1, \dots, v_n が 1 次独立であると仮定する。もし $\langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle = \langle v_1, \dots, v_{i-1}, v_i \rangle$ とすると, $v_i \in \langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle$ なのでスカラー a_1, \dots, a_{i-1} が存在して $v_i = a_1 v_1 + \dots + a_{i-1} v_{i-1}$ と書ける。このとき $a_1 v_1 + \dots + a_{i-1} v_{i-1} + (-1)v_i + 0v_{i+1} + \dots + 0v_n = 0$ となるので, 1 次独立性に矛盾。

「任意の $i = 1, \dots, n$ に対し, $\langle v_1, \dots, v_{i-1} \rangle \subsetneq \langle v_1, \dots, v_{i-1}, v_i \rangle$ 」を仮定する。 $a_1 v_1 + \dots + a_n v_n = 0$ とする。このとき $a_n \neq 0$ とすると $v_n = -\frac{a_1}{a_n} v_1 - \dots - \frac{a_{n-1}}{a_n} v_{n-1}$ となるので $v_n \in \langle v_1, \dots, v_{n-1} \rangle$ 。よって $\langle v_1, \dots, v_{n-1} \rangle = \langle v_1, \dots, v_{n-1}, v_n \rangle$ となり矛盾。故に $a_n = 0$ である。以下同様の議論で順に $a_{n-1} = 0, \dots, a_1 = 0$ が分る。 v_1, \dots, v_n は 1 次独立である。

演習問題 2.23 次のベクトル空間の次元を求めよ。

$$(1) V = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2 \mid x + 5y = 0, x + 3y = 0 \right\}$$

$$(2) V = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2 \mid x + 5y = 0 \right\}$$

$$(3) V = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x + 2y + 3z = 0 \right\}$$

$$(4) V = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid x + 4y - z + w = 0, 2x + 3y + z - 4w = 0 \right\}$$

$$(5) V = \left\{ x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid x + 4y - z + w = 0 \right\}$$

$$(6) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(7) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(8) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} \right\rangle$$

$$(9) V = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 0 \\ -4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix} \right\rangle$$

次元とは基底を構成するベクトルの個数で定義されるので、自分で1つ基底候補を持ってきて、それが基底になる事を示せばよい。(1)–(5) から1題, (6)–(9) から1題証明する。

$$(3) V = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x + 2y + 3z = 0 \right\}$$

は3項数ベクトルで条件式が1つなので2次元であろうとあたりをつける。なるべく簡単なベクトルが望ましいので0が多いベクトルを選

ぼう。 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{y} = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$ を選ぶと $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V$ である。ここで注意。V に属さないベクト

ルを選ばないように。それを選ぶと間違い発見が難しいかも。あとは \mathbf{x}, \mathbf{y} が V の基底である事を前問同様に示せばよい。これが示されれば次元は2である事が分る。

$$(8) \text{ この場合は基底は } \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} \text{ の中から選ぶ事ができる。これらが } V \text{ を生成す}$$

る事は分かるのでこれらが1次独立ならそれが求めるものである。今の場合この3つのベクトル

の組は1次独立でない。それは $\begin{pmatrix} 5 \\ 5 \\ 5 \end{pmatrix} = \frac{5}{4} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} + \frac{5}{4} \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ から分る。 $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ は

1次独立なので、これが基底になる事が分る(自分でチェックして下さい)。よって次元は2です。